

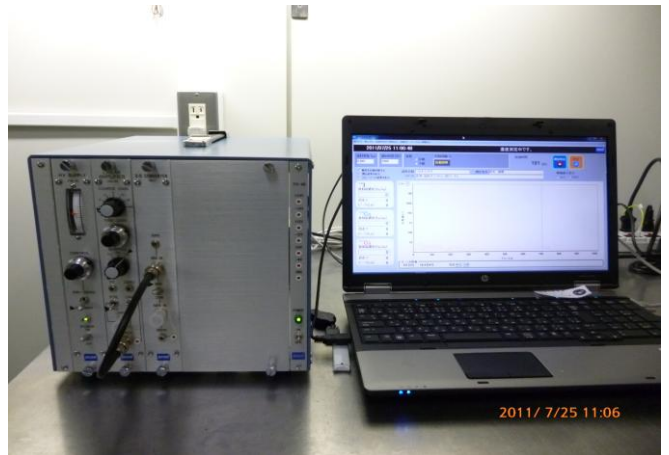
放射能測定手順

(株)いちい 放射能測定室

鈴木 康雅

微量放射能測定装置 FNF-401 シンチレーション検出器

エネルギースペクトル情報を計測部にて取得後、データ処理装置により解析演算処理をして、パソコン画面にて表示



試料カッティング作業台



- 包丁=菜切包丁と牛刀各1丁
- まな板=1
- 専用トレー=2個以上
- フードプロセッサー=1

試料詰め及び計量作業台



- マリネリ容器=容量1L
- ペーパータオル
- 専用内袋=12号
- イージングローブ
- 計量器=1

作業台全景



フードプロセッサー



**カッピング処理前専用バッドに
試料をいれ準備します。**



**このように、試料をある程度
カッピングします。**



**試料を大型フードプロセッサー
に入れます。**



**出来るだけ細かくカット（粉碎）
します。**



**カット処理済試料を、専用の
バッドに入れます。**



マリネリ容器は、試料を入れる隙間が薄いので、始めは少量内袋に試料を入れ、容器の形を作ります。



底の部分に試料を入れ、容器の形に整え、その上に少しずつ試料を入れていきます。



固体の試料は、出来るだけ空隙が無いよう押し込むように容器に入れます。



このように、隙間無く試料をマリネリ容器に入れます。



あらかじめマリネリ容器の風袋を量っておきます。



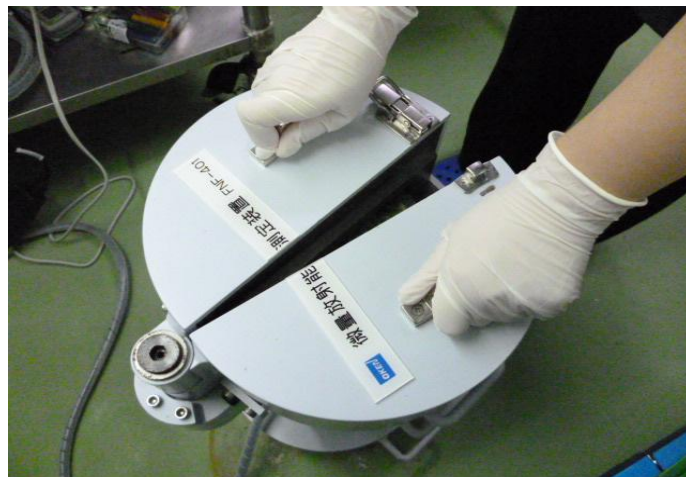
試料の正味の重量を量ります。



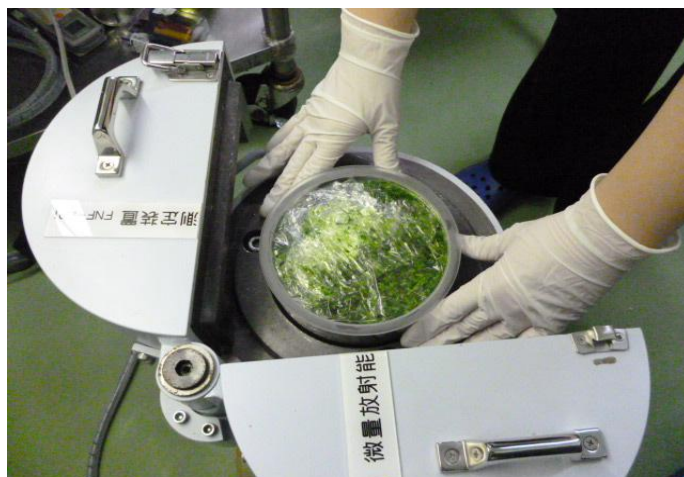
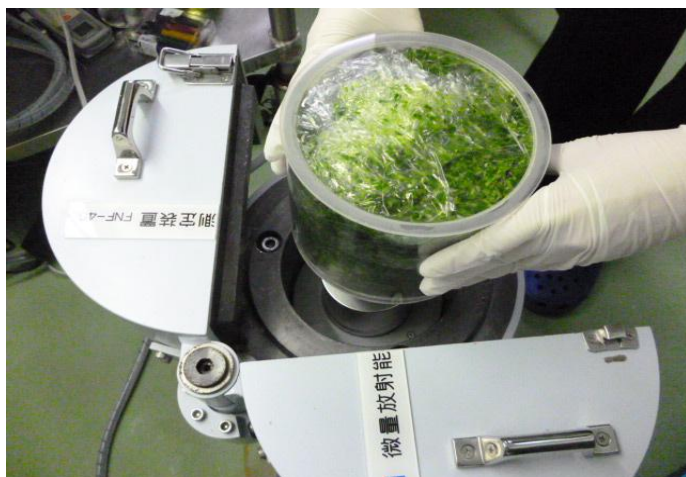
正味の重量を記録します。



測定装置の取手を持ってゆっくり開きます。



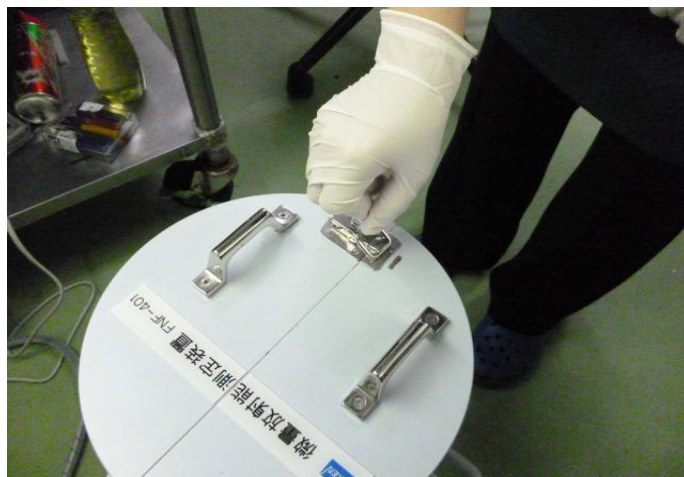
マリネリ容器に詰めた試料を静かに測定装置に入れます。



試料が測定装置に収まった図



蓋をしパチン鍵を締め測定開始。1000秒間測定します。



測定し終わった試料は内袋ごと廃棄します。



マリネリ容器を流水で洗浄します。



このとき、たわし等容器に傷が付く恐れがあるので洗浄しない。流水で手洗いが望ましい。

まな板を流水洗浄します。但し土など高線量の汚染物が付着した場合削り取ります。



包丁を流水洗浄します



フードプロセッサー・バット等を流水洗浄します。



洗浄時の留意点

水圧の強い水道水で、手洗いが望ましい。

たわし等、容器に傷が付く恐れがあるものは使わない。

たわし等、毛羽立っている用具は、他の試料に移行する恐れがあるため出来るだけ使用しない。